

キャリア支援部門 ニュース

No.11
2016.10

<https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/career/introduction/news.html>



学生諸君の「キャリア」支援部門

土田 亮

教育推進・学生支援機構
キャリア支援部門長



いろいろな役目が大学にはあります。学生の皆さんに対しては「知識・技術を伝える」だけではなく、「人を育成する」という重要な役目があります。「キャリア (career, carrier ではない)」という言葉は近年しばしば使われます。辞書を引くとすぐに「経歴」や「履歴」と言う訳が出てきますが、「生涯」と言う訳もあり、個人が持っている技能や経験だけでなく、その人の生き方をも含んだ意味です。学生の皆さんにとって大切な、この「キャリア」の形成を支援するのが本部門の目的です。最近、キャリア支援の充実度が大学の価値を高めることにもなっていますが、本学のキャリア支援部門は具体的に以下の3つからなっています。

①キャリア支援

学部の1年生から大学院生まで、ボランティアやインターンシップの情報を提供しています。学生の皆さんが、社会的・職業的自立をはかれるように支援を行っています。

②就職支援

学部生、大学院生に対して、就職情報を提供しています。各学部にも就職情報が集まりますが、就職支援室では全学的な就職情報も集まります。また、エントリーシートの書き方や面接に関する相談もできます。学部や研究科で探しても就職がなかなかうまく決まらない人は、ぜひ来てみてください。

③イノベーション創出若手人材養成

博士後期課程の学生の皆さんに対し、社会に出た時に役に立つ実践的なプログラムを提供しています。日本では、博士後期課程では自分の研究だけをして、博士論文を仕上げればそれでよいと思われすぎています。将来アカデミアや会社で活躍する皆さんに、ここでのプログラムが役に立つはずですよ。

「どこに有るか？」

大学会館の1階南側、生協第一食堂の横にあります。空調のため扉が閉まっています。入りにくいかもしれませんが、パソコン、求人票、新聞、雑誌、各種カタログがそろっていて自由に閲覧できます。気軽に利用してみてください。

平成28年度キャリア支援部門の日程

4月11日	イノベーション創出若手人材養成プログラム開講（～7月25日）
6月8日	就職活動支援ガイダンス開始
5月10日	基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト事業の募集
9月	就職活動支援ガイドブック2018発行
10月5日	先輩社会人との交流会
11月2日	イノベーション創出若手人材養成部会FD 「企業における 研究開発 - 博士人材の活用について -」
11月17日	キャリア支援部門FD 「現場からの期待と新人の持つ不安、ギャップを乗り越える - イノベーター創出に向けて -」
10月及び3月	キャリア支援部門ニュースの発行

就職してからのライフプランを考える

加納 友香

平成16年3月
医学部看護学科卒業



私は岐阜大学医学部附属病院の看護師として就職し、現在は育児休業中です。就職してからの経験談を参考程度に読んでいただけたらと思います。

就職した当初は、まず仕事に慣れることが大変でした。それは、患者さんを看護する以外に、業務時間内に仕事を終わるように努めること、係活動や研修への参加など、実習の時には見えていなかったことも多くあったからです。また、看護の中でも特に自分は何に力を入れていきたいのか、今後のキャリアプランを視野に入れていく事の必要性を感じました。私は糖尿病科のある病棟に所属していたという事もあり、糖尿病についての専門性を高めたいと感じ、糖尿病療養指導士の資格取得や患者会への参加を行いました。それにより知識が広がり、看護が楽しくなり、患者さんとの

つながりを大切に感じるようになりました。それでも実践の場では、患者さんとうまく関係が築けず、反発されてしまったり、入院中に病院を抜け出して行方不明になってしまう方もあり、悩んだり泣いたりすることもありました。しかし、それがその後の自分の成長や考え方の転換期となり、多様な場面に対処できる力がついてきました。

大学生時代には、就職する事が目標であり、その後は漠然とただ働くだけ、と考えていましたが、大きく言えば今後の生き方を考えていく事となります。どのように働くかを考える中には、結婚、出産などのライフイベントも含まれます。女性は特にそういった時期に、今後のプランを考え直すこととなります。私は結果として、少しですが専門性を高め、ライフステージに合わせた働き方が出来たと考えますが、学生時代から就職後のライフプランを考えておくと、就職先を考える際に教育方針や福利厚生、就業形態についても積極的に情報収集ができます。プランに合った働き方が出来ると、より意欲的になり、時期に応じたステップアップにつながると思います。

当時に振り返って

祖父江 利佳

地域科学部1期生
平成15年3月大学院地域科学研究科修了

現在、岐阜大学事務職員として働いています。卒業して、10年以上経ち、当時に振り返ると、大変就職が厳しい時期だったと思います。新規採用を見送る自治体もあり、公務員志望だった私は、焦りや不安から、自分が何をしたいのかわからなくなり、思い悩む時期もありました。それでも、頑張ることができたのは、勉強会に誘ってくれたり、情報交換したりと支えあった友人がいたことや、面接の練習をしてくださった先生のおかげだと思います。

現在、私が所属する学術国際部社会連携課では、自治体や企業等との連携を支援する業務を行っております。この仕事に就くまで、恥ずかしながら、県内企業についてあまり知りませんでした。仕事上、県内企業に訪問する機会があり、高い技術を持ち、技術開発に積極的な企業があることや、その開発部門や管理部門で、本学の卒業生が数多く活躍していることを知りました。地域経済を支えるものづくり産業に大変興味を持ち、学生時代にこのような企業に出会えなかったことを残念に思いました。今思えば、当時の自分は、狭い視野でしか就職先を見ていなく、最終的に、岐阜大学で働きたいと決め、その選択肢は後悔していませんが、どのような企業があり、自分は何をしたいのか、どのような働き方をするのか、もっとじっくり考えていれば、自分が決めた進路に不安になることも、焦ることもなかったのではと思います。

県内には、魅力的な企業がたくさんあります。ぜひ、インターンシップや企業見学、OB訪問など、積極的に外に出て、働くということを考える機会としてもらえればと思います。



報告 | iGEM Gifuの活動紹介

こんにちは。私たちは岐阜大学応用生物科学部に所属するiGEM Gifu（アイジェム ギフ）です。

まず、私たちの活動について説明します。1つの大きな目的は、アメリカのマサチューセッツ工科大学（MIT）で年に一度行われる合成生物学の世界大会である「iGEM (The International Genetically Engineered Machine Competition)」において研究発表をすることです。大会出場チームは各チーム毎に設定したテーマに沿って調査・実験を行います。そしてその成果をウェブ上で発表し、さらにMITにてプレゼンテーション、ポスターセッションによる発表を行います。そのために日々研究課題に取り組んでいます。また、その過程で現代に欠かせない遺伝子組み換え技術や合成生物学についての理解を深めるだけでなく、学生が主体的に行動し、研究を0から計画して成し遂げることで、これからの人生に不可欠な基盤的能力（自立的行動力、コミュニケーション力、総合的判断力）を養うことができると考えています。ひいては自分たちの学んだことを団体の中で完結させるのではなく、より多くの人に知ってもらいたいと思っています。

今年の私たちの研究テーマは鳥類の糞害の解消です。大量に排出される鳥の糞は街の景観を損なったり、樹木を枯らしたりします。私たちの活動する岐阜県では鶺鴒で有名な鶺鴒の糞害が問題になっています。鳥類の糞の主成分は水に溶けにくい尿酸であるため、雨水程度では除去は困難です。そこで私たちは尿酸を水に溶けやすい尿素まで分解し、容易に雨水で除去できるようにしようと考えました。具体的には、遺伝子組換えした大腸菌に尿酸を分解する機能をもった酵素を産生させて糞に作用させるというものです。

大会のある10月で一旦今回の研究は終わりますが、それ以降も来年に向けて積極的に活動していこうと思います。



iGEM Gifuのメンバー

報告 | GULIPを振り返って

船橋 理佐

鍋屋バイテック会社チーム
平成28年3月工学部生命工学科卒業

GULIPでの活動を通して私の中で大きく変わったと感じたのは、人に自分の考えを伝える能力とものづくりへの興味でした。この変化は現在の仕事にも影響していると思います。

まず、人に自分の考えを伝えるという点についてです。GULIPが他のインターンシップと異なる点は、グループでプロジェクトに取り組むところです。グループで一つの成果を出すためには、情報を共有しなければなりません。自分の意見を正確に相手に伝え、相手の意見を正確に聞くことが重要になります。活動を始めたばかりの頃は、話し合いをしてもかみ合っていないことが多くありました。しかし、話し合いを繰り返す中で、どの順序で話したらわかりやすいか、どのような補助資料を準備したら良いか等、相手に伝わりやすい工夫が身につきました。仕事

は一人でやるものではなく他の人と協力してやるものだ、と、現在働いている会社でも言われます。GULIPで人と協力して仕事を行う経験ができたことは、今後の業務でも役立つと思っています。

次に、ものづくりへの興味についてです。機械部品メーカーである鍋屋バイテック会社でのインターンシップを経験したことにより、ものづくりへの興味が以前よりも強くなりました。また、機械専攻ではなかったため、グループに貢献できるのか不安があったのですが、私にもできることがあると気づき、専攻分野以外のことへ挑戦する自信ができました。このことは就職先の選択肢に影響を与えたと思います。現在は専攻分野とは異なる分野のメーカーで働いていますが、興味深いと思えることばかりで充実しています。GULIPに参加していなければ、今働いている会社にも出会えなかったと思います。

最後に、鍋屋バイテック会社の皆様、キャリアセンターの皆様、グループのメンバー、温かく見守ってくださった周りの方に感謝申し上げます。



H27.3.16当時の最終成果報告会の様子

新任紹介

箆橋 文子

学生ボラネット メンター
(ぎふNPOセンター)



(左手が本人) 学生ボラネットの活動打ち合せ

この4月より、メンター（相談員）として「学生ボラネット」の窓口を担当することになりました。箆橋文子（かごはしあやこ）と申します。

学生ボラネットでは、「なにかボランティアをしてみたい」「自分にはどんなボランティアが向いているのか」といった学生からの相談を丁寧に聞き取りながら、出来るだけ希望にそったボランティアを紹介していきます。また、学生スタッフもおり、ボランティアツアーなどを企画し、学生たちが気軽に楽しくボランティア活動が出来るようサポートしています。

世間一般には、まだまだ「ボランティアは奉仕活動である」という間違っただけの認知でありますが、ボランティアは創造性にあふれた自由な活動であるという事を、学生ボラネットを通して少しでも学生達に伝えられたらという思いです。そのため、学生ボラネットでは様々なジャンルのボランティア情報を用意しております。

公式試合の運営をサポートするプロサッカー球団の運営ボランティア、様々なイベント補助や、日常生活のサポートをする老人施設でのボランティア、困難を抱える子ども達のための居場所で、勉強を教えたり子ども食堂のお手伝いを行う学習支援ボランティア、余命宣告された患者さんが残された時間を有意義に過ごしていただくため、QOL向上のための様々な行事や活動をサポートするホスピスボランティア、子ども達と共に工作をしたりゲームをしたりして、楽しい時間を過ごす児童施設ボランティア、様々なイベント運営をサポートするイベントボランティア等があります。ボランティア活動は、異世代交流の場でもあり、地域の人達との交流の場でもあります。大学内だけでは出来ない体験ができ、出会えない人達とのご縁も広がります。

また、「for（～のために）」ではなく、「with（～と共に）」の気持ちでボランティア活動に関わってもらいたいと願いながら、窓口で皆さんからのご相談をお待ちしております。

先輩社会人との交流会の案内

毎年開催しています「先輩社会人との交流会」を次のとおり開催します。今年は、就職ガイダンス（13時～14時）終了後に全共・多目的ホールで開催します。各学部から、社会で活躍している先輩（各学部1名ずつ計5名）にお越しいただきます。何でもかんでも聞いてください。多数の学生の参加をお待ちしています。

平成28年度キャリア支援部門FDのお知らせ

キャリア支援部門では、毎年2つのFD（イノベーション創出若手人材養成関係とキャリア支援関係）を開催しています。今年はともに11月に次のとおり開催します。多数の教職員・学生の参加をお待ちしております。

キャリア形成・就職支援のための
先輩社会人と語る
—学生から社会人への飛躍—

- ・社会で生き生きと働くには？
- ・社会で活躍している先輩は、大学で何を学んだのか？
- ・就活の不安や疑問を吹き飛ばす！

社会で活躍しているいろんな学部の先輩社会人と交流し、
気楽に相談できるイベントを開催します。

5学部5名の先輩社会人が参加します。

日にち：平成28年10月5日（水）
時 間：午後2時15分～午後3時30分
（就職ガイダンス終了後に開始）
場 所：全学共通教育講義棟 多目的ホール
（申込不要です。）

主 催：岐阜大学キャリア支援部門
協 力：岐阜大学同窓会連合会
問合せ先：キャリア支援部門 058-293-3393
career@gifu-u.ac.jp

平成28年度 キャリア支援部門
イノベーション創出若手人材養成部会FD

【特別講演】
企業における研究開発
—博士人材の活用について—

いま多くの産業分野において新規事業分野への進出と事業拡大が求められています。このため企業の研究開発活動において、新規分野における即戦力の高い専門技術者である博士人材が必要となつていきます。本講演では、事例紹介を含め企業が博士人材に期待することをさせていただきます。

山口 高司氏
株式会社リコー
リコー未来技術研究所 副所長・技師長

日時：平成28年11月2日（水）13：30～15：30
場所：岐阜大学地域科学部第一会議室
対象：学生・教職員

主 催：岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門
連絡先：innova@gifu-u.ac.jp 内線3492

現場からの期待と
新人の持つ不安、
ギャップを乗り越える
～イノベーター創出に向けて～

講師 尾関 智恵氏
岐阜女子大学非常勤講師、各種研修講師ほか

11月17日（木）13：30～
地域科学部第一会議室

就業環境のグローバル化が加速し、新卒者は組織を担うイノベーターとなるべく期待される反面、現場とのギャップに悩み早期退職するなど、成長する前に断念する問題が起り続けています。そこで、新人と現場の思いや期待のギャップを事例から紹介し、大学生活で得られる学びからよりよい就業につなげるために何が必要かを検討していきます。

問い合わせ先
教育推進・学生支援機構キャリア支援部門
058-293-3492・3393 career@gifu-u.ac.jp

キャリア支援部門ニュース編集委員

委員長・土田 亮
(キャリア支援部門長)

委員・坂口 菜朋子
(キャリア支援部門副部門長)

委員・酒光 伸喜
(学生支援課課長補佐・就職支援室長)

委員・五味 進司
(キャリア支援部門事務担当)

●岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門●

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

キャリア支援 TEL 058-293-3393 career@gifu-u.ac.jp	就職支援 TEL 058-293-2147・3362 job@gifu-u.ac.jp	イノベーション創出若手人材養成 TEL 058-293-3492 innova@gifu-u.ac.jp
---	---	--